

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士の資格を有する教員が授業を担当する。就職活動が各自希望に沿って行えるよう、teamsの使い方を理解し、積極的に就職説明会に参加する。							
【到達目標】 各自年内に内定が取れることを目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 主に配布資料を使用する。 就職活動マニュアル				【授業外における学習】 なし			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 2024年度就職活動ガイダンス 【授業形態】 講義 【到達目標】 2024年の就職活動をどのように進めていくのかを理解する。 また手続きに必要なteamsの操作が出来るようになる4。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 2024年度就職活動ガイダンス 【授業形態】 講義 【到達目標】 就職活動時の、特に面接についてどのように進んでいくのかを確認する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 病院説明会① 【授業形態】 講義 【到達目標】 戸田中央医科グループ説明会				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 病院説明会② 【授業形態】 講義 【到達目標】 イムスグループ説明会				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 病院説明会③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 桐和会グループ説明会				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 病院説明会④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 上尾中央医科グループ説明会				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 病院説明会⑤ 【授業形態】 講義 【到達目標】 巨樹の会説明会				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験の実施			【評価方法について】 定期試験(100点)で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(Clinical Dentistry and Dental Surgery Ⅱ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 2時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師の資格を有し、解剖学・組織細胞学を専門に大学でも講義を行う講師が授業を行う。基礎的な口腔領域の知識を再認識しながら、問題に取り組んでいく。							
【到達目標】歯科領域における専門用語や臨床で求められる知識を総復習する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
配布プリント							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 口腔周囲の解剖の基礎知識を復習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 小唾液腺、歯の発生、歯の構造の基礎知識を復習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 う蝕、歯周病について説明できる。歯の形態異常の基礎知識を復習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 試験と解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 口腔粘膜疾患の基礎知識を復習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 口腔粘膜疾患、顎関節の構造・疾患の基礎知識を復習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 摂食・嚥下機序および嚥下に関わる解剖の基礎知識を復習する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 試験と解説			【評価について】 中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅱ (Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士、公認心理師として生活期のクリニックで継続的に発声発語機能の問題がある、患者の評価訓練や生活支援を行ってきた教員が授業を行います。 呼吸発声発語に関わる器官の構造や機能を復習し、そこから運動障害で起こる発話特徴と結び付けて考えられるように講義を行っていきます。問題を用いて傾向を把握し、解答や解説を考えるだけでなく、その意図を理解し読みとく力を養っていく授業となります。関連する基礎科目の復習を行なって臨んでほしい。							
【到達目標】 構音に関連する口唇、舌、口蓋、咽頭、喉頭、気管の解剖、生理を理解する 発声発語器官の運動障害で起こる発話特徴について理解をする							
【使用教科書・教材・参考書】 適宜使用するプリントを配布				【授業外における学習】 過去の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回				回 授 業 概 要			
1	【授業単元】声帯の機能と構造 【授業形態】講義 【到達目標】 声帯の機能や構造について理解が出来て発声発語のメカニズムと関連付けて説明が出来る	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
2	【授業単元】呼吸について 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸運動のメカニズムや関わる器官、神経について理解が出来て発声発語と関連付けて説明が出来る	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3	【授業単元】舌、軟口蓋の機能と構造 【授業形態】講義 【到達目標】 舌の運動と軟口蓋の運動、鼻咽腔閉鎖機能について理解が出来て発声発語に関連付けて説明が出来る	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
4	【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5	【授業単元】その他の器官の解剖 【授業形態】講義 【到達目標】 下顎や口唇、顔面周囲の解剖について説明ができる	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
6	【授業単元】嚥下・発声・構音との関連 【授業形態】講義 【到達目標】 今まで学んだ機能と構造を総合的に発声発語や嚥下機能と関連付けて説明ができる	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまでの発声発語の機能構造についてアウトプットが出来るようにしていきます。	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
8	【授業単元】定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する	【評価について】 評価は5択形式で試験を行う。中間試験(40点)、定期試験(60点) の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。					
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚系の構造・機能・病態Ⅱ Physical and functional disease of the auditory system	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センター等での臨床実務経験および臨床検査技師学校、看護学校での長年の教育経験を有する教員が聴覚系の病態について、1年時に習得した「聴覚系の構造・機能・病態1」の復習も兼ねた振り返りの講義を行います。							
【到達目標】 聴覚系の病態(疾患)についてその原因、症状、検査法、治療法などについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 聴覚系の病態 【授業形態】 講義 【到達目標】 伝音性難聴を来す疾患について理解する。 外耳, 中耳疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 聴覚系の病態2 【授業形態】 講義 【到達目標】 伝音性難聴を来す疾患について理解する。 外耳, 中耳疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 聴覚系の病態3 【授業形態】 講義 【到達目標】 感音性難聴を来す疾患について理解する。 内耳疾患1				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 聴覚系の病態4 【授業形態】 講義 【到達目標】 感音性難聴を来す疾患について理解する。 内耳疾患2				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 聴覚系の病態5 【授業形態】 講義 【到達目標】 感音性難聴を来す疾患について理解する。内耳疾患3				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 聴覚系の病態6 【授業形態】 講義 【到達目標】 感音性難聴を来す疾患について理解する。 後迷路疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験; 40点定期試験; 60点で評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめなどの講義を行います。							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅱ (Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1・2限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 医学博士であり、長年医学部で研究と教育に携わる講師が担当する。臨床の現場で生かる知識を確立する							
【到達目標】 臨床実習のための実力を身に着ける							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能 医歯薬出版、病気が見える メディック メディア				【授業外における学習】 わからなかった所は必ず復習し、余裕があれば過去問を解く			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 神経系とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 神経系の構造と働き、中枢神経系 脳 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の働き、脳の構造と働きを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 中枢神経系 脳 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳の構造と働きを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中枢神経系 脳 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動と感覚の経路などを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 中枢神経系 脊髄 【授業形態】 講義 【到達目標】 脊髄の構造と働きを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 末梢神経系 脳神経、自律神経 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳神経と自律神経の働きを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 末梢神経系 脳神経、自律神経、復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳神経と自律神経の働きを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 神経系の構造と働きを理解する			【評価方法について】 小テスト40点 ＋ 定期試験60点。59点以下を不合格とする			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理測定法Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(Psychometric Method Ⅱ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 金曜日 5時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として障害児療育および介護予防分野で心理学的な実践と研究を長年行ってきた教員が授業を担当する。 本講義の内容は、言語聴覚療法の臨床現場で用いられる検査法の基礎となる。心理学領域の中ではもっとも数学寄りの内容となるが、理解すれば面白くなる はずである。授業に毎回出席し、必ず復習をして知識を確実に定着させること。							
【到達目標】 1年次に学んだ言語聴覚士として必要な心理現象の測定方法に関する知識を総復習する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)、言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版)				【授業外における学習】 毎回の講義後に家庭学習として必ず復習をし、内容の理解と知識の定着を図ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 4つの尺度水準 【授業形態】 講義 【到達目標】 スティーブンスによる4つの尺度水準について各水準の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 精神物理学的測定法(1)測定する感覚量 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神物理学的測定法の概念と測定する代表的な感覚量について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 精神物理学的測定法(2)測定方法 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚量を測定する代表的な方法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回～3回までの内容について確実に理解しておく。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 測定の妥当性と信頼性 【授業形態】 講義 【到達目標】 測定の重要条件である妥当性、信頼性およびその関係について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 評定法 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な評定法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 信号検出理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 知覚判断のモデル、信号検出理論について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 全7回の内容について確実に理解しておく。			【評価について】 中間試験（40点満点） 実施方法:筆記試験 定期試験（60点満点） 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(LinguisticsⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学院で言語学・音声学の知識を学び、研究をしていた教員が、日本語を観察・分析する授業を行う。 1年次に履修した「言語学Ⅰ」の内容をふりかえり、国家試験の過去問や模擬問題を解く。							
【到達目標】 言語学の様々な分野における基礎知識を復習し、国家試験の問題に対応できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 プリントを配布するが、言語学Ⅰや音声学で使用した教科書も適宜参照するとよい。				【授業外における学習】 専門用語を覚えるだけでなく、具体例を自分なりに考えるなど、知識の応用ができるようになること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語の基本的な性質／音韻論 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語の基本性質および音韻論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 文字論／形態論(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 文字論および形態論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 形態論(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 形態論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 試験／講義 【到達目標】 中間試験および解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 統語論(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 統語論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 統語論(2)／意味論 【授業形態】 講義 【到達目標】 統語論および意味論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 語用論／まとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 語用論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 試験／講義 【到達目標】 定期試験および解説			【評価について】 中間試験(40点満点): 第4回の授業時に1時間の試験を行う。持ち込み不可。 定期試験(60点満点): 第8回の授業時に1時間の試験を行う。持ち込み不可。 成績評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 なし							

科目名 (英)	言語発達学Ⅱ (language developmentⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として子どもの発達支援等の臨床経験がある教員が講義を行う。 ヒトはどのような発達を経て「ことば」を使えるようになるのでしょうか。「ことば」を使うということは言語機能の発達以外にも言語を支える認知機能の発達やコミュニケーション機能の発達が欠かせません。「S-S法言語発達遅滞検査」を参考に定型発達の子どもの言語発達を学習しましょう。							
【到達目標】 「発達表」を作成できる。 定型発達児の言語発達の様子を説明できるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 など				【授業外における学習】 定型発達の概要を説明できるようにしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語発達を説明する理論 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 生得説、学習説、認知説など言語発達理論を説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 前言語期 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 前言語期の言語機能と認知機能の特徴を説明できる。 発達表作成を通し、発達の横のつながりを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 単語期 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 1-2歳の言語発達について、その特徴を説明できる。 1-2歳の言語発達について発達表を作成できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 2語文期・3語文期 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 2語文期・3語文期の言語機能と認知機能の特徴を説明できる。 2語文期・3語文期の言語発達について発達表を作成できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 幼児期～学童期の発達 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 談話能力、音韻能力、文字言語の発達について説明できる。 特に音韻能力の発達と文字の理解についての関連を意識し、発達表を作成できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 学童期の言語発達と発達初期の言葉かけ 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 学童期の音韻意識、構文、談話の発達について説明できる。 学童期の発達を発達表を作成できる。 CDSについて説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 文字学習の発達を「ひらがな文字検査」を通して説明できる。 発達初期から学童期までの言語発達を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 ・定期試験(100点満点)で評価を行う。			
【特記事項】 第2回目の授業から、発達表を作成します。発達の横のつながりや、次の段階に進むための前提条件などを整理できるようにしましょう。							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	National Exam Preparation: Language Developmental Disorders	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1・2時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として小児領域の臨床経験を持つ教員が講義を担当する。 言語発達障害の臨床に必要な基礎知識を確認する。							
【到達目標】 言語発達障害学における基礎的な知識の整理および定着を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 主に配布資料を使用する。 言語聴覚士テキスト 第3版(医歯薬出版) 言語発達障害学 第3版(医学書院)				【授業外における学習】 講義内容の復習。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語発達障害学の基礎① 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・言語発達障害とはなにか ・言語発達障害の医学的背景				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 言語発達の基礎② 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・言語発達の段階				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 関連する障害における言語の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 自閉症スペクトラム障害				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 関連する障害における言語の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 注意欠如多動性障害				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 関連する障害における言語の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 特異的言語発達障害				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 関連する障害における言語の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 発達性読み書き障害 限局性学習障害				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 関連する障害における言語の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 吃音				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験の実施			【評価方法について】 定期試験(100点)で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅲ (Diagnosis of Speech and Hearing Disabilities Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士、公認心理師として生活期のクリニックの訪問リハビリ、言語デイにて継続的に失語症の評価・訓練、生活支援を行ってきた教員が講義を行います。本授業では標準失語症検査を認知神経心理学の情報処理モデルを用いて分析する方法を学んでいきます。前半は情報処理モデルを用いて、下位モダリティの処理について学んでいきます。後半は実際の患者の標準失語症検査のプロフィールを用いて、障害メカニズムの分析を行っていきます。一部、失語症語彙検査、SALA失語症検査の内容もより扱っていきます。また言語聴覚士が実施する集団訓練での評価診断についても学んでいきます。							
【到達目標】 情報処理モデルを用いた標準失語症検査の下位モダリティの処理が理解できる 実際の患者の標準失語症検査のプロフィールから障害メカニズムを判断できる 自由会話やグループ会話の評価診断が出来る							
【使用教科書・教材・参考書】 なるほど!失語症の評価と治療―検査結果の解釈から訓練法の立案まで 標準失語症検査マニュアル				【授業外における学習】 復習を特に行ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 総論、聴覚的理解と症状、評価、訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知神経心理学的な情報処理モデルのについて知る。ログジェンモデルを中心に他のモデルについて理解する。聴覚的理解のメカニズムと語音壁、語形壁、語義壁について説明できる。訓練方法が選択できる。			9	【授業単元】 書取の症例検討 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 SLTAの書取の誤り反応や、書称、復唱との比較から障害メカニズムを考察が出来る		
2	【授業単元】 呼称、語列挙のメカニズムと症状、評価、訓練、症例検討 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 呼称、語列挙のメカニズムと換語困難、意味性錯語、音韻性錯語、音韻性失名詞について説明ができる。またSLTAの呼称の誤り反応から障害メカニズムを考察できる。			10	【授業単元】 障害メカニズムのまとめ 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 症例検討に向けて、ここまで学んだ情報処理モデルを用いたSLTAの分析方法をまとめて説明できる。		
3	【授業単元】 復唱のメカニズムと症状、評価、訓練、症例検討 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 復唱のメカニズムについて説明ができる。またSLTAの復唱の誤り反応や聴覚的理解、呼称との比較から障害メカニズムを考察できる。			11	【授業単元】 症例検討1 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 実際のSLTAのプロフィールを情報処理モデルを用いて資料を見ながら、分析ができる		
4	【授業単元】 読解、音読のメカニズムと症状、評価、訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 読解、音読のメカニズムと音韻性失読、表層性失読、深層性失読、視覚性失読について説明ができる。			12	【授業単元】 症例検討2 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 実際のSLTAのプロフィールを情報処理モデルを用いて資料を見ながら、分析ができる		
5	【授業単元】 音読の症例検討1, 2 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 SLTAの音読の誤り反応や、読解、呼称との比較から障害メカニズムを考察が出来る			13	【授業単元】 グループ訓練について 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 グループ訓練の歴史と現在までの日本の法制度上の変遷が理解できる。またグループ訓練内で使用する。言語聴覚士としての手技についても理解できる		
6	【授業単元】 書称・書取のメカニズムと症状、評価、訓練 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 書称・書取のメカニズムについて説明ができる。			14	【授業単元】 グループ訓練での評価診断、アプローチ 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 グループ訓練を行うでのグループ分けのための評価方法を理解することができる。またグループ訓練のプログラムを立案できる。		
7	【授業単元】 書称の症例検討 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 SLTAの書称の誤り反応や、呼称、音読との比較から障害メカニズムを考察が出来る			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する			【評価について】 評価は①5択②論述の形式で試験を行う。中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。定期試験は授業形態によってはレポート形式の論述方式とする。			
【特記事項】 演習はグループワークが中心です。							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅲ (Higher Brain Dysfunction Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として高次脳機能障害や失語症の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚士を目指す学生に高次脳機能障害についての専門的な知識と技術を習得できるように指導する。高次脳機能障害は失認、失行、記憶障害など多岐にわたるが、言語聴覚士が関わっていく主要な分野である。臨床に結び付く正確な知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 各障害について症状を理解し説明できる。さらにその知識を応用して様々な症例や問題を解決できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 ・病気が見える 第2版				【授業外における学習】 事前に教科書やこれまでのノートを見て復習しておきましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 失行 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失行について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			9	【授業単元】 認知症 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 認知症について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる		
2	【授業単元】 失行 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失行について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			10	【授業単元】 前頭葉機能障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前頭葉機能障害について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる		
3	【授業単元】 失認 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失認について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			11	【授業単元】 脳梁離断症状・視空間認知障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 脳梁離断症状と視空間認知障害について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる		
4	【授業単元】 失認 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失認について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			12	【授業単元】 病巣 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各症状の病巣について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる		
5	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 記憶障害について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			13	【授業単元】 病巣 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各症状の病巣について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる		
6	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 記憶障害について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			14	【授業単元】 検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各症状の検査について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる		
7	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 記憶障害について理解し、その知識を応用して症例や問題を解決できる			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は筆記試験にて行う。中間試験40点、定期試験60点の計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 分からないことは授業中に質問して解消し、覚えていない知識は授業中に集中して覚えましょう。							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅲ (Speech Development Disorders)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として小児領域の臨床経験を持つ教員が講義を担当する。 言語発達障害学に関する基礎的な知識を実際の臨床に近い形式で整理する。							
【到達目標】 言語発達障害学の臨床において基礎的な知識の整理、定着、運用を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 主に配布資料を使用する。 言語聴覚士テキスト 第3版(医歯薬出版) 言語発達障害学 第3版(医学書院)				【授業外における学習】 講義内容の復習。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 評価の基本 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・情報収集 ・検査 ・評価のまとめ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 発達段階に即した介入 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 ・発達段階に即した介入の具体例について考える				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 言語発達障害の介入 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 自閉症スペクトラム障害に対する介入				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 言語発達障害の介入 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 注意欠如多動性障害に対する介入				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 言語発達障害の介入 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 特異的言語発達障害に対する介入				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 言語発達障害の介入 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 発達性読み書き障害、限局性学習障害への介入				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 言語発達障害の介入 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目の知識を整理する。 吃音				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験の実施			【評価方法について】 定期試験(100点)で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声障害Ⅱ (voice disorderⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科での臨床経験のある言語聴覚士が講義を行う。この授業では重要事項の確認をしながら問題を解き、解説を行う。「音声障害Ⅰ」、「耳鼻咽喉科学」、「呼吸発声発語系の構造・機能・病態」の講義内容を復習してくること。							
【到達目標】 ①音声障害の疾患について説明できる。 ②音声障害の疾患に適した検査法と訓練法を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 医学書院 発声発語障害学				【授業外における学習】 予め復習をして授業に臨んでください。学んだことがそのまま国家試験対策となります。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 発声と構音のための構造と機能 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 発声発語器官の構造について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 発声と構音のための構造と機能 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 発声発語器官の構造とその役割について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 検査・評価 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の検査法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 検査・評価 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の評価法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 疾患・治療・訓練 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の疾患とその特徴について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 疾患・治療・訓練 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の各疾患について治療、訓練法を説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害についてその疾患の概要、評価法、訓練法を説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 ・定期試験(100点満点):筆記試験 ・評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 発声発語器官の構造や機能の知識は成人領域、小児領域共に言語聴覚士の臨床に不可欠です。講義の前に復習をしっかりとってください。							

科目名 (英)	機能性器質性構音障害Ⅱ (Speech disordersⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として長年小児の臨床に携わってきた教員が、言語聴覚士のスペシャリストとして社会に送り出すために、構音障害に必要な知識と技術を習得する授業を行う。また、講義を通して、学習のモチベーションを維持できるように、具体的なST業務の魅力ややりがいについて伝えていきたい。その日授業を受けたら、復習をしっかりとした上で、次週の授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 2年次に学習した機能性・器質性構音障害Ⅰの基礎的知識の再確認と実践的な構音訓練法の習得を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
発声発語障害学第3版 医学書院 2015 構音障害の臨床 金原出版 2008 言語聴覚士テキスト第3版 医歯薬出版 2018							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 構音の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音の発達の流れを再認識し説明できる。			9	【授業単元】 器質性構音障害の臨床(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 口蓋裂におけるSTの役割について理解を深める。		
2	【授業単元】 構音器官 【授業形態】 講義 【到達目標】 実際の構音動作を実感しながら、構音器官のイメージを再構築する。			10	【授業単元】 器質性構音障害の臨床(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔がんにおけるSTの役割について理解を深める。		
3	【授業単元】 国際音声字母 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 国際音声字母(IPA)の読み取り及び記述を確実にする。			11	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各音の訓練方法の習得(1)		
4	【授業単元】 構音検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 検査手順を再確認し説明できる。			12	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各音の訓練方法の習得(2)		
5	【授業単元】 構音検査(2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 検査を確実に実施できる。			13	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(3) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各音の訓練方法の習得(3)		
6	機能性構音障害の定義 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音障害の概念と分類を再認識し説明できる。			14	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(4) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 異常構音の訓練方法の習得		
7	【授業単元】 器質性構音障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 器質性構音障害の分類と発話症状について再確認し説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 出来なかった問題を見直し、理解を確実にする。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 出来なかった問題を見直し、理解を確実にする。			【評価について】 中間試験(40点) 定期試験(60点) 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅱ (DysarthriaⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士、公認心理師として生活期のクリニック、言語ディで、継続的に運動障害性構音障害の患者の評価訓練や生活支援を行っている教員が授業を行います。本講義は運動障害性構音障害Ⅰの内容を踏まえて応用的、実践的な授業を行います。運動障害性構音障害の定義症状、評価・検査、タイプ分類、訓練法の分野に分けて復習と問題演習を行います。授業ではアウトプットを重視し、各項目ごとに使用頻度の多い用語などを覚えるのではなく、理解する事を中心に行っていきます。							
【到達目標】 運動障害性構音障害の定義について述べられる。 運動障害性構音障害のタイプを理解し症状と結びつけて解説ができる。 運動障害性構音障害の検査方法、訓練方法を解説ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア 臨床標準テキスト(医歯薬出版) 標準言語聴覚障害学「発声発語障害学 第三版」(医学書院) プリント配布				【授業外における学習】 過去の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】運動障害性構音障害 総論と症状 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の定義と鑑別方法、言語障害としての位置づけ、各要素で起こる症状について問題から意図を汲み取り理解し解説が出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】評価・検査について(発話特徴抽出検査以外) 【授業形態】演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の評価方法について、問題から意図を汲み取り理解し解説が出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】発話特徴抽出検査 【授業形態】演習 【到達目標】 発話特徴抽出検査の手続きや性質について理解する。そして問題から意図を汲み取り理解し解説が出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験と解説 【授業形態】講義 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】タイプ分類1 発話特徴との関連 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプと発話特徴の関連、メカニズムを理解できる。そして問題から意図を汲み取り理解し解説が出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】タイプ分類2 疾患・付随症状との関連 【授業形態】演習 【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプと疾患、付随症状との関連、メカニズムを理解できる。そして問題から意図を汲み取り理解し解説が出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】訓練法(原則、機能訓練、発話速度低下手技、AAC) 【授業形態】演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の訓練法について問題から意図を汲み取り理解し解説が出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する				【評価について】 評価は5択形式で試験を行う。中間試験(40点)、定期試験(60点) の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅲ (DysphagiaⅢ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
IMSグループ新越谷病院で勤務している森本です。言語聴覚士として回復期、維持期、生活期を経験してきました。言語聴覚士として働く上で、病期に関わらず嚥下障害の知識・技術の獲得は不可欠です。授業では嚥下障害、嚥下リハビリテーション(評価・訓練)の基礎知識が習得できるようにしていきます。講義を聴くだけでなく、学生さん自ら能動的に学習できるよう、調べる・演習・ディスカッションなども取り入れ、身に付く学習ができるように工夫していきたいと思っております。							
【到達目標】							
①嚥下障害の基礎知識を獲得する ②言語聴覚士が実施する嚥下障害の評価についての基礎知識を獲得する ③言語聴覚士が実施する嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を獲得する ④言語聴覚士国家試験の嚥下障害分野の理解を深める							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
摂食嚥下ポケットマニュアル 摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション				特記なし。必要に応じて適宜案内します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(解剖生理) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食・嚥下に必要な機能解剖・生理学的知識を理解する 頭頸部の触診を実施する			9	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(間接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接嚥下訓練の目的、適応、方法を理解する 間接訓練の一部を実施する		
2	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(摂食・嚥下メカニズム) 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食・嚥下の5期モデルを理解する 摂食・嚥下のプロセスモデルを理解する			10	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(間接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接嚥下訓練の目的、適応、方法を理解する 間接訓練の一部を実施する		
3	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(嚥下障害の原因・症状・病態) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害の原因となる疾患等を理解する 嚥下障害の症状を理解する 嚥下障害の病態を理解する			11	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(直接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 直接的嚥下訓練の目的、適応、方法を理解する 直接訓練の一部を実施する		
4	【授業単元】 嚥下障害の評価(スクリーニング) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害のスクリーニング評価を理解する 嚥下機能検査(RSST、WMST、WST、FT)を理解する 評価の一部を演習する			12	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(直接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 直接的嚥下訓練の目的、適応、方法を理解する 直接訓練の一部を実施する		
5	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する 食事場面から評価できる嚥下状態を理解する 評価の一部を演習する			13	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(外科手術) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害に対する外科的治療の方法、目的、適応について理解する		
6	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する VF・VE検査の概要を理解する			14	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 情報から問題点抽出、目標設定、訓練プログラム立案までを出来るようにする		
7	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する VF・VE検査の概要を理解する			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で授業内容の理解度を評価する。 評価は学則に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児聴覚障害Ⅱ (Infantile Auditory RehabilitationⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科で補聴器・人工内耳外来に携わり、小児のリハビリテーションを行ってきた教員が、小児聴覚障害臨床の知識を振り返る講義を行う。受講に際しては、小児聴覚障害Ⅰの当該箇所を復習し講義に臨むこと。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をすること。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 小児聴覚障害について理解し、聴覚障害がもたらす発達上の諸問題に対処しうる知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ①改訂聴覚障害Ⅰ基礎編(建帛社)、②改定聴覚障害Ⅱ臨床編位(建帛社) ③言語聴覚士のための聴覚障害学(医歯薬出版)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】小児聴覚障害の原因、聴覚発達 【授業形態】講義 【到達目標】 小児聴覚障害の原因を説明できる。 遺伝性・胎生期性・周産期性 新スクから生後一年までの聴覚発達を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】小児療育 【授業形態】講義 【到達目標】 小児の療育と訓練について説明できる。 母親法と構成法 教育モダリティー 聴覚学習				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】言語訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 言語訓練の方法について説明できる。 0歳から2歳まで 3歳から4歳まで 5歳から就学まで				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間のまとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験、解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】発声発語の評価・訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 難聴児の音声・構音獲得について説明できる。 難聴の程度と発話特徴				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】発声発語の評価・訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 発声発語指導について説明できる。 発声指導 音韻指導 構音訓練				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】モダリティー 【授業形態】講義 【到達目標】 手話や指文字の適応と特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験、解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	成人聴覚障害Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(Auditory RehabilitationⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期
学科・コース	言語聴覚士科					曜日・時間	木曜日 5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で聴覚障害児・者に携わった教員が、成人聴覚障害臨床に関する知識を振り返る講義を行う。 受講に際しては、成人聴覚障害Ⅰの当該箇所を復習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートをよく復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①成人聴覚障害の原因、症状、特徴について理解する。②聴覚・コミュニケーション・心理社会面の評価について理解する。③成人期の訓練・指導について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ6 改訂聴覚障害Ⅱ－臨床編 言語聴覚士のための聴覚障害学				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 成人聴覚障害の原因 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人聴覚障害の原因を説明できる。 老人性難聴 髄膜炎性内耳炎 その他難聴を引き起こす疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 成人聴覚障害者の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人聴覚臨床の対象の特徴を説明できる。 ライフステージ上の問題を各ステージごとに説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 成人聴覚障害者の評価・訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 中途失聴者の心理回復過程と適切な対応を説明できる。 オーディオグラムと聞こえの特徴について説明できる。 異聴分析とその解釈について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 前半の振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 中間試験 解答解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 成人聴覚障害者の評価・訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 質問紙法による問題抽出について説明できる。 HDHS・聞こえの質問紙				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 成人聴覚障害者の評価・訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 トップダウン処理とボトムアップ処理の違いを説明できる。 系列的な聴能訓練について説明できる。 読話訓練について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 視覚聴覚二重障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 二重障害の特徴を説明できる。 タイプ分類とコミュニケーションモダリティ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 後半の振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(Hearing TestⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 5時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で各種聴覚検査を実施してきた教員が、聴力検査に関する基本的な知識および測定技術を身につける講義を行う。受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 各種聴力検査の目的、実施方法、結果の解釈について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚検査の実際				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】標準純音聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 マスキングを使用した聴力検査が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】標準純音聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 マスキングを使用した聴力検査が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】インピーダンスオージオメトリ 【授業形態】演習 【到達目標】 耳小骨筋反射検査の障害部位と検査結果について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】語音聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 音場での語音聴力検査の実施方法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】乳幼児聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 各発達年齢に応じて、適切な聴力検査を選択できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】他覚的聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 特徴的な症例に対してどの他覚的聴力検査を用いればよいか選択出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】補聴器適合検査 【授業形態】演習 【到達目標】 補聴器適合に用いられる聴覚検査の内容が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験と解説			【評価について】 評価は、レポートと筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。レポート(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床医学 (Clinical medicine)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 看護師として大学病院、一般病院で、小児・成人・老年・在宅看護の経験を持ち、左記内容の授業経験を持つ教員が授業を行う。言語聴覚士に必要なと思われる臨床医学の知識について再認識し、将来患者様の状態の把握出来ることを目標に講義する。基礎医学的知識の復習も取り入れ学生自身が考え、学生間で知識の共有・理解を目指す。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な臨床医学の知識とライフサイクルの関連性を理解することが出来る。。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 配布資料				【授業外における学習】 専門用語の再認識 練習問題は国家試験対策にもつながる内容構成です。しっかり理解してください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】ライフサイクル、発達段階、健康上の問題 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】小児期・成人期・老年期のライフサイクルにおける発達段階・課題について理解する。各期の健康上の問題点を述べる事が出来る。			9	【授業単元】動脈硬化性疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】動脈硬化が原因となる心疾患、脳血管疾患を理解する。		
2	【授業単元】呼吸器疾患の理解 【授業形態】GW＋講義 呼吸器疾患とそのリハビリテーションについて理解する。			10	【授業単元】 老年期の疾患の理解 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】加齢による問題点と疾患の特徴を理解する。		
3	【授業単元】免疫疾患 アレルギー 自己免疫疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】小児期から老年期までの免疫機構の特徴を理解し疾患との関連を理解する。			11	【授業単元】精神疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】ストレス、精神疾患、薬物依存など身体と心の問題の関連性を理解する		
4	【授業単元】血液・腎疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】血液・腎疾患の特徴について理解する。			12	【授業単元】感染症(小児期から老年期) 【授業形態】 GW＋講義 【到達目標】各期における感染症の特徴、予防策を理解する。		
5	【授業単元】口唇・顔面の先天奇形と形成術 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】口唇・顔面の先天奇形と形成術について理解する。			13	【授業単元】筋肉・神経疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】筋肉の神経支配を理解(復習)し、筋肉疾患を理解する。		
6	【授業単元】出生前の因子による疾患 染色体異常 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】妊娠時の問題による疾患、染色体異常について、母子保健の視点からについて理解する。			14	【授業単元】外傷性疾患 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】外傷における損傷が与える影響を脊髄損傷を中心に理解する		
7	【授業単元】生活習慣病 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】高血圧、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症の特徴を理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】 理解があいまいな専門用語はよく復習すること。							

科目名 (英)	解剖学Ⅲ(解剖生理演習・画像診断)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
	(AnatomyⅢ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期 水曜日 5時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 大学の法医学教室に勤務し、長きにわたり法医解剖実務や学生の講義を行い、また、学生の解剖学実習も指導してきた教員が、幅広い豊富な知識を有する言語聴覚士を養成するための講義を行う。言語聴覚士として必要な聴覚器の構造と機能、発声に必要な咽喉頭の構造と機能、神経系などを中心に人体の構造と生体の機能について講義する。							
【到達目標】 人体の構造を丸暗記するのではなく、イメージできるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト、人体の構造と機能				【授業外における学習】 講義を効率的に理解するため、毎回、授業前に配布されたプリントの予習を行い。授業後は必ず復習を行い理解して、重要事項をイメージしながら暗記する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 細胞の構造と機能・蛋白質合成 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体の基本である細胞の構造と機能を理解する。染色体・遺伝子・DNAの違いと蛋白質合成の過程を理解する。			9	【授業単元】 神経系④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 脊髄の構造と機能及び、脊髄神経について理解する。また、自律神経について理解する。		
2	【授業単元】 発生学 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体の発生の概要と胚葉・鰓弓について理解する。			10	【授業単元】 感覚器系① 【授業形態】 講義 【到達目標】 平衡聴覚器の構造と機能について理解する。		
3	【授業単元】 組織学・血液学 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体の器官形成の基礎である組織の種類・構造と機能を理解する。また、血球の種類と機能について理解する。			11	【授業単元】 感覚器系② 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚器と味覚器及び皮膚の構造と機能について理解する。		
4	【授業単元】 骨格系 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体の最も基本である骨格系について、骨の役割や骨組織の構造と機能を理解する。また、頭蓋・脊柱・胸郭・骨盤の構造と機能について理解する。			12	【授業単元】 脈管系① 【授業形態】 講義 【到達目標】 脈管系(血管系)の構造と機能について理解する。		
5	【授業単元】 筋系 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭部の筋・舌の筋・頸部の筋・呼吸運動に必要な筋について名称と構造及び機能を理解する。また、全身の運動を行うために重要な筋について名称と構造及び機能を理解する。			13	【授業単元】 脈管系② 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓の構造と機能について理解する。		
6	【授業単元】 神経系① 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の分類について理解する。神経組織の種類と構造及び機能について理解する。神経の伝導と伝達のメカニズムについて理解する。			14	【授業単元】 呼吸器系 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸器系の構造と機能について理解する。		
7	【授業単元】 神経系② 【授業形態】 講義 【到達目標】 大脳(終脳)の構造と区分と機能局在について理解する。間脳・中脳・橋・延髄・小脳の構造と機能について理解する。			15	【授業単元】 内分泌系 【授業形態】 講義、定期試験 【到達目標】 分泌の種類と違い、内分泌系の名称と機能について理解する。		
8	【授業単元】 神経系③ 【授業形態】 講義、中間試験 【到達目標】 脳神経12対について名称と機能及び特徴を理解する。また、特に聴覚・視覚・味覚の伝導路について理解する。			【評価について】 中間試験(40問)をマークシート方式で行う。最終日に定期試験(60点)をマークシート方式で行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅳ (Preparation for the National Examination Ⅳ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2・3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として28年小児領域で言語聴覚療法を行っています。江戸川区を拠点に養成校でも後進育成および特別支援学校、特別支援学級、小児専門歯科での支援に取り組んでいます。 本授業では小児の領域で必要とされる病気や障害の知識を深めていきます。							
【到達目標】 就職後、言語聴覚士として知っておくべき病気の概要がわかるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第3版				【授業外における学習】 必要に応じて指示します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1. 2	【授業単元】 小児の発達と成長 【授業形態】 講義 【到達目標】 新生児から学童期を中心に身体的成長および精神発達を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3. 4	【授業単元】 胎児医学と出生前医学 【授業形態】 講義 【到達目標】 遺伝性疾患、染色体異常、奇形など、主に胎児医学・出生前医学について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5. 6	【授業単元】 周産期医学 【授業形態】 講義 【到達目標】 出産時障害、特に新生児仮死について理解する。 また低出生体重について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 脳性麻痺 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳性麻痺の原因・タイプについて理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1コマから7コマまでを範囲として筆記で試験を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 中間試験は実施せず、定期試験のみで評価する。 筆記試験で100点満点とする。		
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅴ (Preparation for the Natinal ExaminationⅤ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1・2・3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として臨床経験を有する専任教員が、2年次までに学んだ科目群の振り返りの講義を行う。受講に際しては、各教科の当該箇所を復習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 失語・高次脳、言語発達障害、発声発語系、聴覚系について基本的な内容を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 各教科で使用了教科書およびノート 適宜資料配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1・2	【授業単元】発声発語・嚥下障害 【授業形態】講義 【到達目標】 音声障害について基本的内容を説明できる	17・18	【授業単元】失語・高次脳機能障害 【授業形態】講義 【到達目標】 高次脳機能障害について基本的内容を説明できる				
3・4	【授業単元】聴覚障害 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚の構造機能について基本的内容を説明できる	19・20 担当:矢作	【授業単元】言語発達障害 【授業形態】講義 【到達目標】 小児に多い疾患について基本的内容を説明できる				
5・6	【授業単元】発声発語・嚥下障害 【授業形態】講義 【到達目標】 嚥下障害について基本的内容を説明できる	21・22	【授業単元】聴覚障害 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器人工内耳について基本的内容を説明できる				
7・8	【授業単元】失語・高次脳機能障害 【授業形態】講義 【到達目標】 失語症について基本的内容を説明できる	23	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験 解答解説				
9・10	【授業単元】言語発達障害 【授業形態】講義 【到達目標】 言語発達障害について基本的内容を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
11・12	【授業単元】聴覚障害 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚障害について基本的内容を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
13・14	【授業単元】言語発達障害 【授業形態】講義 【到達目標】 小児の検査について基本的内容を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
15・16	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験 解答解説	【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。					
【特記事項】							